

日本学生自転車競技連盟

第5回 欧州遠征事業 (2003年)

報 告 書

JAPAN SPORTS PROJECT B.V.

山宮 正 (Tadashi SANGU)

はじめに：

第5回目を迎えた今年度の「学連欧州遠征事業」には、法政大学から鈴木謙一、土井雪広の両選手が派遣されて参りました。

鈴木選手は、昨年アイルランドの「ミルクラス」に出場しており、また土井選手はジュニア時代より数々の海外遠征を経験しているため、両選手共海外でのレース活動のための準備には特に問題は無く、自転車の整備なども十分にされておりました。

土井選手は、一昨年に世界選手権のための事前合宿で当地に滞在した事があり、当地での生活感覚も事前に分かっていたため、これまでに派遣された選手達と比べ、精神的な面でかなり楽だったのではないかと思います。

両選手共レースに対する考え方、取り組みは非常に前向きなものを持っていて、少しでも多くのレースを走りたいという意欲が感じられました。

「学連欧州遠征事業」では、これまで11日間に5レース（滞在12日間の2001年は6レース）に出場しておりますが、学連上層部からは「出場レースが多すぎて、帰国後の日本国内のレース（インカレ）で良い成績を出せないで、出場レース数を減らす様に。」との意見が出ております。

しかし、派遣されて来た選手達は、「自転車レースの本場ヨーロッパで、しかもレース活動をするための受け入り体制が確立している状況で走れる数少ない機会を有効に活かしたい。」と考えていて、短期間の滞在期間中はステージレースに出場しているつもりで、毎日でもレースを走りたい。」といった希望を強く持っておりました。

また、帰国後の日本での成績云々は、インカレまで2週間以上あるのだから、選手各々の帰国後の過ごし方の問題と考えております。つまり、当地において、十分な走りこみを行なった選手に対し、日本でトレーニングしか行なっていない選手と同じプログラムを合宿などで課していることが問題なのではないでしょうか？

今回は、滞在日数が9日間（実動可能日数は7日間）とこれまでに無く短い遠征でしたが、4レースに出場しました。選手達は5-6レースに出場したかった様子ですが、滞在日数上それは無理でした。

尚、欧州遠征事業の「報告書」は、今年2月、学連事務所における会合の際に上層部より「レース出場の簡単な状況報告のみで構わない。」とのご指示がありましたので、それに従い、今年度は内容を簡略化致しました。

2003年 8月

山宮 正

## 2003年 学連欧州選手派遣事業 レース活動日程表

---

**7月31日(木) オランダ・アムステルダム・スキポール空港到着 16:50**

8月 1日(金) 自転車組み立て&調整、午後トレーニング

8月 2日(土) トレーニング&休養

**8月 3日(日) トレーニング&休養**

**8月 4日(月) Roosendaal オランダ クリテリウムレース 80km 14:15 スタート**

8月 5日(火) Kooigem ベルギー ロードレース 112km 15:00 スタート

8月 6日(水) ZUNDERT オランダ クリテリウムレース 80km 19:00 スタート

**8月 7日(木) Aalst ベルギー ロードレース 119km 15:00 スタート**

8月 8日(金) 帰国日 14:00 アムステルダム・スキポール空港発

8月 9日(土) 日本到着

注釈： 当初予定しておりました8月3日のベルギー Brasschaat のロードレースは、昨年までは19-25才までの年齢限定レースでしたが、今年は「U23カテゴリー」を除外したイベントに変更されていて、出場する事が出来なかったため、急遽8月5日のKooigem (U23カテゴリーのみのレース) への出場に変更致しました。

# レース活動状況報告

## 1、ROOSENDAAL

大会名： DRAAI VAN DE KAAI



開催日： 2003年 8月 4日

開催場所： ローゼンダール・オランダ

参加者： 選手 2名 鈴木 謙一、土井 雪広 (法政大学)  
監督 1名 山宮 正 (JAPAN SPORTS PROJECT B.V.)

天候： 快晴 気温 32度 無風

競技結果： 土井選手、第3グループ(集団)、鈴木選手、第4グループ(小集団)で完走。  
着順は不明。(土井選手で45位前後)

レースの状況：

\* 81km (2, 7km × 30周) のクリテリウムレース  
エリート・アマ + U23 オープンレース

今年の第一戦は、当初予定していた前日のベルギーのレースに出場できなかったため、ローゼンダールのクリテリウムになりました。

この大会は、毎年ツール・ド・フランス終了後にオランダ各地で連日開催される「スパースター・クリテリウム」の一つで、アマチュア+U23のレースはプロレースの前座試合として行なわれます。コースはオランダ特有のレンガ道がほとんどで、激しい振動を受ける路面に不慣れな日本選手にとっては、難しいレースです。

しかし、この日は快晴で風も無く、走りやすい状況に加え、オランダとしては32度という猛暑で、地元選手達の走りが比較的消極的であったため、鈴木、土井両選手共集団で完走する事が出来ました。土井選手は前半非常に積極的な走りをし、常に先頭から10番以内を維持しておりましたが、中盤に強豪選手達によって築かれた逃げのグループには加わる事が出来ませんでした。鈴木選手は、常に集団の中程に位置し、時折後方に下がってしまったものの後半には立ち直りを見せ、一時は土井選手より前を走っておりましたが、やはり肝心な所で前の方に出る事が出来ませんでした。



写真： 2003年 ROOSENDAAL

## 2、KOOIGEM

大会名： 特になし。



開催日： 2003年 8月 5日

開催場所： コーイヘム・ベルギー

参加者： 選手 2名 鈴木 謙一、土井 雪広 (法政大学)  
監督 1名 山宮 正 (JAPAN SPORTS PROJECT B.V.)

天候： 快晴 気温 35度 無風

競技結果： 鈴木選手、スタート約5分で後輪パンクのためリタイヤ。

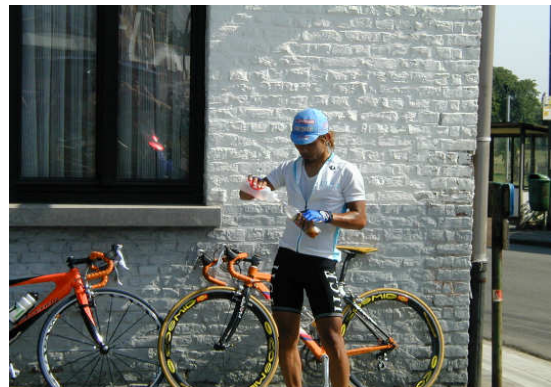
土井選手、レース中盤のコーナーリングでコースアウト、落車でリタイヤ。

レースの状況：

\* 7, 5 km × 15周 112 km 周回コースのロードレース  
U23カテゴリーのみの限定レース

今年のオランダ・ベルギーの夏は、例年になく記録的な猛暑で、連日快晴の真夏日が続きました。この日も日中の気温が35度まで上がったため、出走者23名の非常に少人数のレースになりました。ベルギーの「ケルメ・スクールス」と呼ばれるローカルレースは、出場事前申し込みの制度は無く、常に当日受付のみなので、悪天候、猛暑または他の地域で大きなイベントが重なる様な場合、選手が集まらない事があります。このレースでは、30位までに賞金が用意されていたため、完走すれば賞金を獲得出来るチャンスでもありました。

しかし、鈴木選手はスタート5分後に後輪のパンクでリタイヤ。土井選手は、7周目まで10名の先頭グループに加わっていたものの、コーナーリングをミスしてコースアウト。ほぼ停止状態で草地に転倒したため、落車によるダメージは全く無かったものの次の周で集団との差が広がったため、降ろされてしまいました。



写真： 2003年 KOOIGEM



### 3、ZUNDERT

大会名： ROND VAN ZUNDERT



開催日： 2003年 8月 6日

開催場所： スンデルト・オランダ

参加者： 選手 2名 鈴木 謙一、土井 雪広 (法政大学)  
監督 1名 山宮 正 (JAPAN SPORTS PROJECT B.V.)

天候： 快晴 気温 29度 無風

競技結果： 土井選手、8位。 鈴木選手、集団でゴール、着順は不明。(25位前後)

レースの状況：

\* 約 80km のクリテリウムレース  
エリート + U23 オープンレース

ZUNDERTのクリテリウムレースは、夜7時スタートのため、涼しく走りやすい状態でした。また、コースが今年は多少変更され、難しいコーナーは無くなり、日本人向けのコースになっていました。そのため、土井選手はスタート直後から積極的な展開が出来、2周目に5名の先頭グループを形成。中盤で2名が加わり7名の先頭グループになったものの、周回賞を頻繁に取るなど非常に良い走りをしました。鈴木選手も集団の中で無難に走り、特に後半は先頭グループを追う牽引力となる走りを見せました。

レースは、ラスト3周で先頭グループから2名が飛び出し、その逃げが決まり、残り5名は最終回、ゴール直前で集団に捕まるという白熱した展開に。土井選手は、なんとか前方を維持し、7位入賞。鈴木選手はギリギリのところまで賞金を取り損ないました。(20位まで賞金)



写真： 2003年 ZUNDERT

#### 4、AALST

大会名： 特になし。



開催日： 2003年 8月 7日

開催場所： アールスト・ベルギー

参加者： 選手 2名 鈴木 謙一、土井 雪広 (法政大学)  
監督 1名 山宮 正 (JAPAN SPORTS PROJECT B.V.)



天候： 快晴 気温 34度 無風

競技結果： 土井選手、2周目で手段より脱落、3周目でリタイヤ。 鈴木選手、9週目で集団より脱落、10周目でリタイヤ。

レースの状況：

\* 6, 6 km × 18周 119 km 周回コースのロードレース  
エリート・アマ + U23 オープンレース

この日のレースには、カザフスタンのナショナルチームが出場し、彼等がスタート直後より果敢な走りをしたため、非常にハイスピードのレース展開になりました。

土井選手は、前日のクリテリウムで積極的な走りをし、エネルギーを出し切っていたため、スタート直後から全く脚が回らず、2周目であっけなく脱落。

鈴木選手は、集団に何とか位置していたものの、中盤で極端に上がったスピードについて行けず、ちょうど半分でリタイヤとなってしまいました。



写真： 2003年 AALST

以上